

「本の時間」をつくらう

栃木県教育委員会

「本の楽しさ」「読書のよこび」を生徒たちに伝えましょう！

活字の持つ世界、本が作る言葉の世界は、無限のものです。生徒たちが、自分の中に言葉による世界を築きあげていくことを通して、本は身近で魅力的な友だちとなります。本を読む楽しさ、読書のよこびを生徒たちに伝えましょう。家庭や学校で本のある環境を整え、本の時間をつくることは本好きの生徒を育てる第一歩となるでしょう。

「心」をはぐくみます

夢や希望を与える作品、感動や思いやりの心を育てる作品、生きる意欲や生き方の道しるべを示してくれる作品など、深く心に残る読書の経験は、心の栄養となり、豊かな情緒や繊細な感性をはぐくんでいきます。読書によって、想像する力や、集中力、忍耐力をつけることにもなるでしょう。

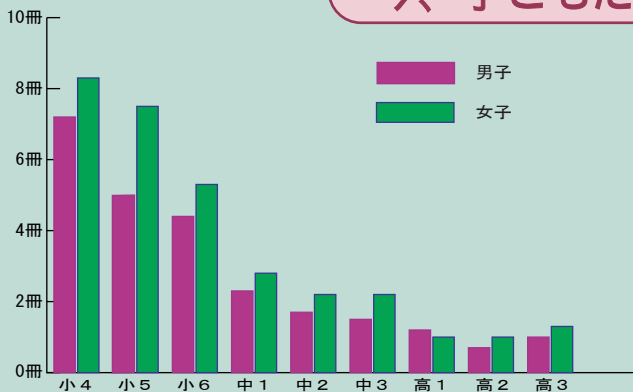
また、本を媒体としたコミュニケーション活動により、生徒たちは新しい「本」と出会い、「人」と出会うことができ、そのことはその後の人生の指針となるでしょう。

「学ぶ力」をはぐくみます

生徒たちは、本を読むことによって、文章の中に息づいている言葉の意味や使い方を自分のものとして身に付けていきます。こうして獲得した言葉は、知恵や思索の源となり、さらに主体的・能動的に考える原動力となっていきます。

読書は、生徒たちを知的な世界へといざなう力を本質的に持っています。新しい世界を求めようとする欲求は、「主体的に学習する力」そのものといえるでしょう。

今、子どもたちの読書事情は？



読書量の少ない中学生・高校生

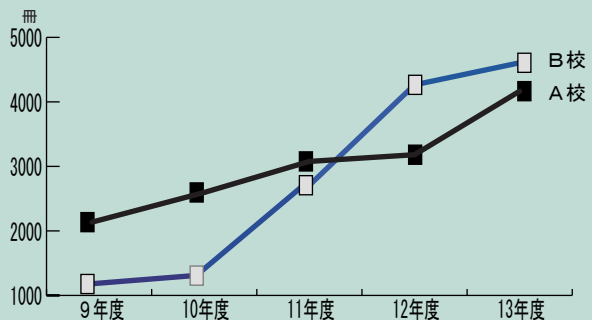
第47回学校読書調査（2001年、毎日新聞社・学校図書館連絡協議会）によると、中学、高校と学齢が進むに連れて本を読まなくなる傾向にあります（グラフ1）。特に、1か月間に本を一冊も読まない不読者が中学生では43.7%、高校生では67.0%にもものぼります。

グラフ1 1人当たりの平均読書冊数（5月1か月間）

朝の読書で読書量アップ

県内のA・B両校は、（A校は10年度から、B校は11年度から）「朝の読書」に取り組んでいます。両校とも取り組んだ後で、図書館での本の貸し出し数が増えています（グラフ2）。

本に親しむ時間をつくるという生徒への積極的なはたらきかけが、成果をあげています。

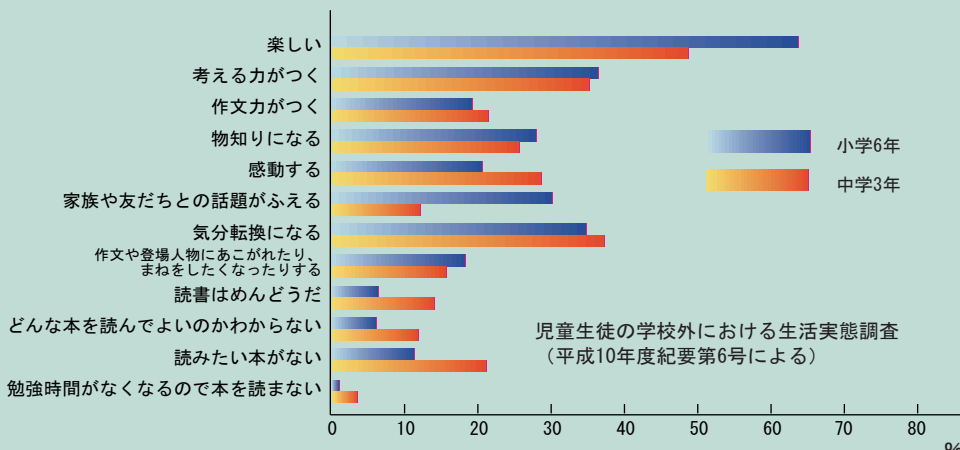


グラフ2 図書館の貸し出し数の推移

読書について語り合える学校に

中学生になると、読書に対して「楽しい」や「話題が増える」という意識を持つ生徒が少なくなり、「読書はめんどろだ」「読みたい本がない」という意識を持つ生徒が多くなってきています（グラフ3）。（平成10年度栃木県総合教育センターの調査研究による）

生徒の読書に対する意識を探り、読書の実態を把握した上で、ガイダンスや情報交換の場をつくるのが大切です。



グラフ3 あなたは読書についてどのように考えていますか？（3つまで選択）

児童生徒の学校外における生活実態調査（平成10年度紀要第6号による）

学校の読書環境を見直しましょう

生徒たちが多くの時間を過ごす学校で、生徒たちに豊かな読書環境を提供しましょう。活動の中で、本を読む、本で調べる、本について話したり書いたりするなど、生徒が本に親しみ、本を通して学ぶ時間をたくさんつくりましょう。

学級（ホームルーム）から始まる読書活動

生徒の最も身近にいる学級（ホームルーム）担任は、子どもたちの心をつかんだ指導ができるという意味で、読書の案内人といえます。

教室という学びの場を活用して、読書に関する取組を考えましょう。

読書マラソン

年度や学期の当初に、年間読破冊数の目標を立てます。

チェーン読書

グループ内で一冊の本を次々に友達へと読み継いでいきます。

読書掲示板の作成

教室に友達に薦める本についての紹介記事を書き込んでいきます。また、Webを利用して作成するのも良いでしょう。

ブックトーク

先生などが、生徒に特定のテーマに関する優れた図書を紹介する活動です。

その他、学級文庫の設置、友達どうしでお互いに本を紹介し合うことなど読書に関係した活動を取り入れてみましょう。学級（ホームルーム）から読書に関する活動を始めましょう。

これらの活動は、他の読書に関する活動の原点となるでしょう。

積極的に授業の中で本の紹介を

普段の授業の中で、生徒が本にふれる機会、本を読む機会をつくりましょう。学習の導入として、また、次の段階の学習に向けての発展として、生徒の疑問に答える本や興味・関心を高めるさまざまな分野の本を、授業の中で活用していきましょう。授業の中で紹介された本は、生徒の知的好奇心を高めることになってでしょう。

先生から授業の内容に関連した良い本を紹介することも大切です。先生方が紹介した本によって、生徒の読書に対する意識が大きく変わるかもしれません。

機能的な学校図書館を目指して

読書センターとして

生徒の多様な興味・関心にこたえる本、生徒に読ませたい本を収集し、分かりやすく配置することが大切です。また、館内を魅力的に整え、多くの生徒たちが集まり、自発的に読書ができる場としての環境づくりに努めましょう。各種行事を図書館が主催し、生徒が本と出会う機会を設けることも大切です。校内で最も文化的な香りの高い空間であることが求められています。



学習情報センターとして

蔵書構成は、課題解決的な学習、探究的な学習など生徒の主体的な学習に対応できるように配慮することが大切です。そのためには、図書資料のデータベース化を促進するとともに、コンピュータ等を利用した調べ学習や、マルチメディアを活用した学習ができるような環境を整えていく必要があります。また、書籍だけでなく新聞、雑誌、ビデオテープなどの情報ソフトの収集に努めましょう。

さらに、学校図書館の機能を十分に生かすためには、他校の学校図書館や公立図書館などとネットワーク化を図ることにより、広く図書資料の検索や貸し借りができる仕組みをつくっていくことが求められています。

「総合的な学習の時間」の調べ学習に

「総合的な学習の時間」では課題の設定から解決、まとめに至るまでのあらゆる過程で、本を有効に活用することができます。

調べやすい環境づくりに努め、本で調べる活動などを取り入れましょう。

本を中心とする活字メディアによって、学習に必要な情報を活用する知識・技術をはぐくむことが大切です。

ブックリストを作成してみませんか

学校図書館や各教科で、学習の目的やテーマに沿って本をリストアップし、生徒が図書目録として活用できるようなブックリストを作成しておくことが便利です。その他、各学校でさまざまなブックリストを工夫してみましょう。

例) 郷土を知る～栃木について～

卒業までにこの本を読もう～本校30選～

生徒が選んだベスト100

昨年度の貸し出しベスト50

私のすすめる本

・先生から ・保護者から ・図書委員から

効果的な学校行事を

読書月間（週間）や読書の日などを利用し、読書に関する学校行事を設定することも啓発活動の一つです。

学校図書館が中心となって、読書講演会や読書会、読書座談会など、読書に関する話や意見交換の場を設ける機会を作りましょう。

読書感想文コンクール、朗読発表会、読書新聞作りなどの行事は、日頃の読書活動に変化を持たせ、より深まりのある読書力をつけるきっかけとなるものです。

効果を高めるためには、年間計画の中に適切に位置付け、職員の共通理解のもとに実施することが重要です。

※学校図書館法の一部改正により、平成15年度から12学級以上の学校には司書教諭が配置されます。学校図書館をはじめとする読書環境の整備・学校図書館の活用、その他様々な読書活動を推進するために、司書教諭・学校司書を中心として、校内の協力体制を整えていくことが求められています。



読書で始まる学校の日

「朝の読書」は、全国で8000を超える学校に広がっています。授業が始まる前の時間に10分程度、本を読むという取組です。

「読書の習慣がついた」「主体的に本を読むようになった」「集中力がつき、授業にも落ち着きが出てきた」など、生活面での効果が報告されています。

「朝の読書」取組のポイント

みんなで

学校全体、学年全体、またはクラス全体で。先生も一緒に活動が大切です。取組に当たっては、教職員の共通理解のもとに生徒への説明を徹底しましょう。

好きな本を

生徒全員がそれぞれ自分の力にあったものを選ぶことが大切です。好きな本でよいことにすれば、生徒全員が自然と自分の個性にあったものを選びます。良書を読みたくなるような活動と組み合わせてもいいでしょう。

継続的に

集中力が持続できる時間（10分間程度）を設定し続けて行うことが生徒を読書好きにします。積み重ねにより確実に子どもの読書力を伸ばしていくことができます。

無理なく

本を読むことの楽しさを味わえるようにすることが大切です。生徒にとってあまり負担にならないことが「朝の読書」を続けるためのポイントです。

読書に関する記念日・読書週間

子ども読書の日 4月23日

2001年12月「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、この新法の中で4月23日を「子ども読書の日」と決めました。

子どもの読書週間 4月23日～5月12日

社団法人読書推進運動協議会主催のもので、子どもの読書活動を推進するために設けられています。

学校図書館の日 6月11日

学校図書館法の改正・公布を記念し、1997年に社団法人全国学校図書館協議会が設けたものです。

読書週間 10月27日～11月9日

社団法人読書推進運動協議会主催のもので、「秋の読書週間」として定着しています。